

沖縄戦戦没者 遺体収容体験ツアー

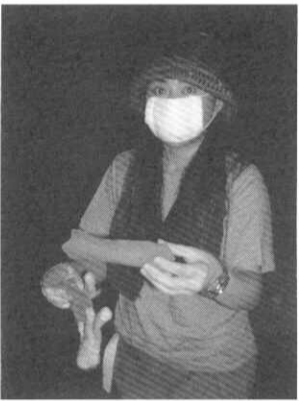
遺体収容について

当会では、厚生労働省と戦没者の方々の遺体・遺品の返還などについて、「国の命令で逝ったのだから、国の責任で遺族に帰すべき」の基本姿勢を基に交渉を続けておりますが、今後、戦没者の方々は墓地埋葬法に基づいて、遺骨ではなく遺体として取り扱うことを確認しました。したがって、当会も今後は遺骨収集活動を改め遺体収容活動とすることいたしました。ご理解とご協力をお願いします。

平成17年2月11日から13日の日程で「沖縄戦戦没者の遺体収容体験ツアー」を行いました。参加者は、当会会員を主として20代から80代の男女33名。沖縄戦を肌で感じる旅になったことだと思えます。

遺体収容及び電気探査に備えて説明会を開催しました。遺体収容については北里慶祐氏より説明を受けました。そのほか、実際に戦争を体験され参加されていた高田俊秀氏より、当時の話を伺いました。昨日のことのように鮮明に語られる話は、戦争を知らない若者世代の心へまっすぐに届いていたようです。

説明会終了後、防空壕の場所を確認。大きな通りに面したコンビニの裏手にある壕の前に、参加者はショックを隠しきれない様子でした。



発掘した骨と思われるもの

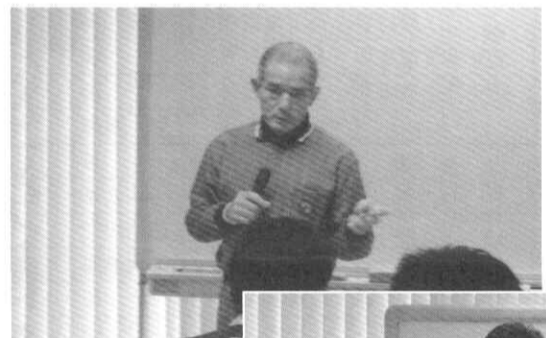


電極を打ち込む電気探査班



壕の中で穴を掘る遺体収容班

遺体収容の説明をする国吉勇氏



電気探査の説明をする北里慶祐氏



南風原文化会館にて説明を受ける参加者



体験後行なわれた慰霊祭

体験日当日、遺体収容班約20名と電気探査班約10名の2班に別れて、5時間に渡り実際に体験しました。

【遺体収容班】
スコップで1メートルから1メートル50センチ程穴を掘って行き、熊手で土をかき分けながら遺体(遺骨)や遺留品を探していく作業です。壕の中は足場が悪く暗い為、思うように作業は進まず、人骨と思われる骨は見つかりませんでした。当時の物と思われる靴底や歯ブラシ・壊れた食器などが見つかりました。

【電気探査班】
電気探査機を使って壕の入口を探索する作業を行いました。ジャングルのような場所に入り、立つ事がやっとと言った場所で、1メートルごとに電極を打ち込んでいき、電気を流しデータをとっていききました。電極を打ち込む作業は、男性でもかなりの力が必要でした。後日、データからの結果、見事！防空壕の場所を探し当てることが出来ました。

体験終了後、平和祈念公園にて、本年に入って収容された遺体を前に、慰霊祭を行い戦没者の冥福を祈りました。

参加した若者の声

戦没者(若者)は国の命令で逝ったのだから、国の責任で帰すべき

私に出来る供養

草場 慶多



今回、人生の中で初めて「遺体収容」を体験しました。今まで2回沖縄に訪れていますが、このような角度で沖縄を見たことは、大変沖縄に対する印象を変えるのに力がありました。今までは、修学旅行での平和教育、プライベートでの観光で訪れていましたが、日本の中で「1つの県」に過ぎませんでした。しかし、実際に五感を全て使うことにより「簡単には足を踏み込めない土地」へと私自身の中で考えが変わっていききました。

現在、私達は何も自由なく、平穏な日々を送っています。その裏には過去の戦争により、何の意味もなく数多くの尊い命が失われ、人々の記憶からなくなっているという現実があるのも事実です。遺体1つ1つが今の私達、将来の私達に何を訴えているのか、それを静かに耳を傾け、行動を起こしていくことが何よりも命を落としたり人への供養になるのではないのでしょうか。

何となく参加したが

野田麻里子



私にとってこの体験ツアーは、とても貴重なものになりました。私は、

深い意味もなく参加したのですが、すごく深い旅だなと思えました。まず戦争体験者の方の、生の声を聞いたことです。その中でも「沖縄の道路の下には、今も遺体が埋まっていたり歩み歩かみしめないといけない」と言われて、とても考えました。楽しいことばかり考えていた私にとって、私自身が道路の下に埋まっている人のことを考えてみようと思いました。それから、1日目の夜に国吉さんの資料館に行けたことです。1つ1つ説明していただき、自分の手で実際に触れてみて心にズシッと感じました。そして2日目、探査をして、本当に、防空壕が見つかればいいなと思いました。こんな貴重な体験をありがとうございました。これから、自分で考えるだけでなくいろんな人にこの旅のことを伝えていきたいです。

戦争を繰り返さぬ事が供養

染矢 研



「NPO法人 戦没者を慰霊し平和を守る会」が私の住む三養基郡北茂安町に在る所から興味を持ち参加させて頂きました。

遺体収容の現状説明から戦争体験談、遺体収容作業、慰霊祭と行い戦争についての想いを深め、戦没者に対し「恐かったですよ、痛かったですよ、苦しかったですよ」そのお陰で私

ちの平和があります。繰り返してはならない戦争とその供養を忘れることなく、後世に伝えていく責務を背負っていくことが必要と強く思いました。今回、めったに体験できない貴重な日を送れたことに感謝致します。

体験を語り継ぎたい
牛嶋 香織

今日は非常に貴重な体験をさせて頂き、感動しました。こんな大変な作業だと思っていなかったため、やり終えたときはとても疲れましたが、少しでも早く壕を発見できたらいいなという気持ちでしていると時間が経つのが早く、もっと調査したかったです。

今回は時間に限りがあり、ほんの一部しかできなかったのですが、今回の一回で終わらず、または是非参加させて頂きたいという気持ちが強まりました。今までは戦争というものを第三者的にしか捉えていなかったのですが、これからはもっと身近なものだと考え、私の周りにもこのようなことが今おこっているという現状を伝えていき、少しでも多くの人々に知ってもらいたいと思いました。

今日は本当にありがとうございました。